

三重県経済の動向

No.484

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きがみられるものの持ち直している

11月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比1.1%減で16か月連続の減少。11月のコンビニ販売額（速報）は1.0%増で2か月ぶりの増加。家電大型専門店販売額は4.3%増で2か月ぶりの増加。ドラッグストア販売額は11.1%増で32か月連続の増加。12月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は4.1%増で14か月連続の増加。普通（＋4.5%）は4か月ぶりの増加、小型（＋3.5%）が3か月ぶりの増加。軽（＋4.4%）は9か月連続の増加。11月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は11.9%減で2か月ぶりに減少、3か月後方移動平均では4か月ぶりの減少。

住宅建築：足踏み

11月の住宅着工戸数は、前年比9.2%増で2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では0.8%の微減。持家（△5.3%）が3か月連続の減少となったが、貸家（＋28.1%）と分譲（＋18.6%）が2か月ぶりの増加。床面積は4か月ぶりの増加。

設備投資：持ち直し

11月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比6.4倍（＋538.9%）で3か月ぶりの増加、3か月後方移動平均では5か月連続の増加。12月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比3.1%増と2か月連続で増加したが、3か月後方移動平均では2か月連続の減少。普通貨物（△2.9%）は2か月ぶりに減少したものの、小型貨物（＋2.8）は2か月連続の増加、軽貨物（＋5.0%）は3か月ぶりの増加。

公共工事：横ばい

12月の公共工事請負件数は前年比13.8%増で3か月連続の増加。請負額は、95.1%増で3か月連続の増加、年度累計では4.2%増と4か月ぶりの増加。増加の主な要因は、県土整備部（県）において災害復旧関連の取扱件数が増加したこと、中日本高速道路（株）（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連、環境生活部（県）において「環境修復事業（桑名市五反田）」関連、四日市市（市町）において「吉崎ポンプ場」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：上向き兆し

11月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出額（速報）は、前年比7.1%減で3か月ぶりに減少したが、3か月後方移動平均では2か月連続の増加。主要港である四日市港は6.8%減で3か月ぶりの減少。四日市港では、品目別で石油製品、科学光学機器などが増加したものの、自動車、半導体等電子部品、ベアリング及び同部分品などが減少。県内2港の通関輸入額は、27.3%増と5か月連続の増加。

生産活動：回復

10月の鉱工業生産指数（季調済）は138.5と前月比（＋6.8%）では2か月ぶりに上昇、原指数は140.6と前年比（＋7.8%）では7か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、食料品工業、化学工業、情報通信機械工業などが低下したが、電子部品・デバイス工業、金属製品工業、輸送機械工業などが上昇。在庫指数（季調済）は104.3で、前月比7.2%低下と3か月ぶりの低下。

雇用情勢：高水準続く

11月の有効求人倍率（季調済）は1.69倍で、前月比0.01ポイント上昇、55か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.25倍で、前月比0.26ポイント低下。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業や、輸送用機械器具、食料品、電子部品・デバイス・電子回路などの製造業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）などは前年比増加したが、卸売業、小売業などは減少。正社員有効求人倍率（原数値）は1.13倍（前年差＋0.20ポイント）で前年を上回って推移し、5か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ KHネオケム（株）（東京都）は、機能性材料事業の主力製品である冷凍機油原料の生産能力を増強するため、四日市工場に新規製造設備の建設を発表。近年、中国をはじめとする新興国でのエアコン市場の拡大や、オゾン層破壊・地球温暖化に配慮した冷媒へのシフトに伴い需要が増加。今後も国際的な環境規制強化を背景にさらなる需要増を予想。投資額は約75億円。2018年5月着工、2019年11月完工、2020年1月生産開始の予定。
- ・ 2017年の伊勢神宮年間参拝者数は879万8,351人（前年比＋0.7%）となり、過去四番目の多さとなった。増加要因として、同年4～5月に全国菓子大博覧会「お伊勢さん菓子博」が伊勢市内で開催されたこと、また16年5月開催の伊勢志摩サミットの効果などが挙げられる。一方、外国人参拝者数は10万4,481人（同△5.0%）と前年を下回った。

<資料出所>百貨店・スーパー、コンビニ等販売額：経済産業省、新車登録台数（普通・小型）：三重県自動車販売協会、軽自動車新車販売台数：三重県軽自動車協会、家計消費支出：総務省、新設住宅着工戸数・建築物着工床面積：国土交通省、公共工事請負件数・請負額：東日本建設業保証網、通関輸出入額：四日市税関支署、鉱工業指数：三重県戦略企画部統計課、求人倍率・求人数：三重労働局

三重県経済の動向

No.485

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きも持ち直し

12月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.1%減で17か月連続の減少。12月のコンビニ販売額（速報）は1.5%増で2か月連続の増加。家電大型専門店販売額は3.1%増で2か月連続の増加。ドラッグストア販売額は8.9%増で33か月連続の増加。1月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は3.3%増で15か月連続の増加。小型（△3.3%）が2か月ぶりに減少したものの、普通（＋1.3%）は2か月連続の増加、軽（＋9.9%）は10か月連続の増加。12月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は14.1%増で2か月ぶりに増加、3か月後方移動平均では2か月ぶりの増加。

住宅建築：足踏み

12月の住宅着工戸数は、前年比16.8%減で2か月ぶりの減少。3か月後方移動平均では8.0%の減少。持家（△4.3%）が4か月連続の減少、貸家（△30.4%）と分譲（△28.2%）は2か月ぶりの減少。床面積は2か月ぶりの減少。

設備投資：持ち直し

12月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比20.0%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均では6か月連続の増加。1月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比5.9%増と3か月連続で増加。3か月後方移動平均では3か月ぶりの増加。小型貨物（△10.8%）は3か月ぶりに減少したものの、普通貨物（＋6.7）は2か月ぶりの増加、軽貨物（＋13.1%）は2か月連続の増加。

公共工事：横ばい

1月の公共工事請負件数は前年比8.2%増で4か月連続の増加。請負額は、52.3%増で4か月連続の増加、年度累計では5.6%増と2か月連続の増加。増加の主な要因は、中部地方整備局（国）において「北勢バイパス」関連、市町では、四日市市において「吉崎ポンプ場」関連、大台町において「宮川特産品加工施設」関連の大型工事が、また三重県市町総合事務組合（その他）において「共有デジタル地図共同整備事業」関連の大型業務委託があった影響等による。

輸出入：上向き兆し

12月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出入額（速報）は、前年比15.6%減で2か月連続の減少。3か月後方移動平均では3か月ぶりの減少。主要港である四日市港は15.2%減で2か月連続の減少。四日市港では、品目別で石油製品、科学光学機器などが増加したものの、自動車、金属加工機械、写真用・映画用材料などが減少。県内2港の通関輸入額は、28.7%増と6か月連続の増加。

生産活動：回復

11月の鉱工業生産指数（季調済）は146.2と前月比（＋5.6%）では2か月連続の上昇、原指数は147.5と前年比（＋5.9%）では8か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、金属製品、窯業・土石製品、プラスチック製品などが低下したが、電子部品・デバイス、食料品、輸送機械などが上昇。在庫指数（季調済）は98.8で、前月比5.3%低下と2ヶ月連続の低下。

雇用情勢：高水準続く

12月の有効求人倍率（季調済）は1.67倍で、前月比0.02ポイント低下、56か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.45倍で、前月比0.20ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）などは前年比減少したが、建設業や、輸送用機械器具、電気機械器具、金属製品などの製造業、運輸業、郵便業、小売業などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.17倍（前年差＋0.18ポイント）で前年を上回って推移し、6か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- 中国の海運会社SITCコンテナライズ社が、新たに四日市港と中国・上海港などを結ぶコンテナ貨物の定期航路を開設した。中国向けの、輸出（貨物量）は化学薬品や自動車部品、輸入は日用品雑貨が多く、これらの取扱量増加が期待される。便数は週1便で、1隻当たりのコンテナ積載量は790TEU。四日市港を経由する航路の開設は2年10ヵ月ぶりで、18航路目となる。

三重県経済の動向

No.486

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きも持ち直し

1月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.1%減で18か月連続の減少。1月のコンビニ販売額（速報）は1.4%減で3か月ぶりの減少。家電大型専門店販売額は6.2%増で3か月連続の増加。ドラッグストア販売額は10.9%増で34か月連続の増加。2月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は0.6%減で16か月ぶりの減少。普通（+0.4%）は3か月連続の増加、軽（+4.9%）は11か月連続で増加したものの、小型（△8.5%）は2か月連続の減少。1月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は9.8%減で2か月ぶりに減少、3か月後方移動平均も2か月ぶりの減少。

住宅建築：足踏み

1月の住宅着工戸数は、前年比17.4%減で2か月連続の減少。3か月後方移動平均は8.9%の減少。持家（△6.2%）が5か月連続の減少、貸家（△15.3%）と分譲（△31.5%）は2か月連続の減少。床面積（△14.6%）は2か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

1月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比62.1%減で3か月ぶりの減少、3か月後方移動平均では7か月連続の増加。2月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比0.9%減と4か月ぶりの減少。3か月後方移動平均では2か月連続の増加。小型貨物（△5.4%）は2か月連続で減少したものの、普通貨物（+2.6%）は2か月連続の増加、軽貨物（+0.4%）は3か月連続の増加。

公共工事：横ばい

2月の公共工事請負件数は前年比25.0%増で5か月連続の増加。請負額は、50.4%減で5か月ぶりに減少したものの、年度累計では1.7%増と3か月連続の増加。請負額減少の主な要因は、中部地方整備局（国）の取扱が減少した影響、また、昨年度に三重大学（独立行政法人等）において「附属病院」関連、中日本高速道路(株)（独立行政法人等）において「東名阪自動車道」関連、県土整備部（県）において「三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：上向く兆し

1月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比16.9%増で3か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では2か月連続の減少。主要港である四日市港は5.9%増で3か月ぶりの増加。品目別では自動車、半導体等電子部品などが減少したものの、石油製品、有機化合物、染料・なめし剤及び着色剤などが増加。県内2港の通関輸入額は、16.0%増と7か月連続の増加。

生産活動：回復

12月の鉱工業生産指数（季調済）は146.5と前月比（+0.2%）では3か月連続の上昇、原指数は148.3と前年比（+10.0%）では9か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業、業務用機械工業などが低下したが、生産用機械工業、輸送機械工業、化学工業などが上昇。在庫指数（季調済）は98.4で、前月比0.4%低下と3か月連続の低下。

雇用情勢：高水準続く

1月の有効求人倍率（季調済）は1.68倍で、前月比0.03ポイント上昇、56か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.42倍で、前月比0.06ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、宿泊業、飲食サービス業などは前年比減少したが、建設業や、食料品、輸送用機械器具、はん用機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.16倍（前年差+0.18ポイント）で前年を上回って推移し、7か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ 当社が今年1月に県内事業所向けに実施した「景況調査」結果（回収456件、回収率37.7%）によると、業況判断BSIは、29年度下期実績見込みは+10.8となり、29年度上期（△6.7）より大幅に改善、8期ぶりのプラスに転じた。30年度上期は+10.5でほぼ横ばいの見通し。実績見込みでプラスとなったのはバブル崩壊後で3回目。調査対象22業種のうちプラスは、前期6業種から、今期13業種、来期12業種に増えた。製造業・非製造業ともに大・中堅企業が大きく改善したのに加え、中小企業も製造業を中心に改善し8期ぶりのプラスに転じるなど、業種・規模ともに回復の裾野が広がっている。

三重県経済の動向

No.487

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きも持ち直し

2月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.3%減で19か月連続の減少。2月のコンビニ販売額（速報）は1.1%増で2か月ぶりの増加。家電大型専門店販売額は0.5%減で4か月ぶりの減少。ドラッグストア販売額は10.0%増で35か月連続の増加。3月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は2.9%減で2か月連続の減少。普通（＋5.5%）は4か月連続で増加したものの、小型（△13.4%）は3か月連続の減少、軽（△1.5%）は12か月ぶりの減少。2月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は前年に増加した反動もあり、30.2%減で2か月連続の減少、3か月後方移動平均も2か月連続の減少。

住宅建築：足踏み

2月の住宅着工戸数は、前年比12.2%減で3か月連続の減少。3か月後方移動平均は15.5%の減少。持家（△8.4%）が6か月連続の減少、貸家（△14.8%）と分譲（△18.4%）は3か月連続の減少。床面積（△12.2%）は3か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

2月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比77.5%減で2か月連続の減少、3か月後方移動平均では8か月ぶりの減少。3月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比0.8%増と2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では3か月連続の増加。普通貨物（△18.5%）は3か月ぶりの減少、小型貨物（△2.9%）は3か月連続で減少したものの、軽貨物（＋9.8%）は4か月連続の増加。

公共工事：横ばい

3月の公共工事請負件数は前年比25.8%増で6か月連続の増加。請負額は、22.0%減で2か月連続の減少となったが、年度累計では0.8%の微減。3月の請負額減少の要因は、中日本高速道路(株)（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連の大型工事等により増加したものの、昨年度、中部地方整備局（国）において「東海環状」、「国道23号」関連の大型工事が、伊賀市（市町）において市庁舎新築の大型工事等があった影響による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き

2月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出額（速報）は、前年比9.3%減で2か月ぶりの減少。3か月後方移動平均では4か月連続の減少。主要港である四日市港は8.9%減で2か月ぶりの減少。品目別では石油製品、染料・なめし剤及び着色剤などが増加したものの、自動車、半導体等電子部品、鉱物性タール及び粗製薬品などが減少。県内2港の通関輸入額は、35.1%増と8か月連続の増加。

生産活動：回復

1月の鉱工業生産指数（季調済）は137.4と前月比（△6.2%）では4か月ぶりに低下したものの、原指数は135.9と前年比（＋6.5%）では10か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、業務用機械、窯業・土石製品、繊維などで上昇したが、電子部品・デバイス、輸送用機械、はん用機械などが低下。在庫指数（季調済）は102.2で、前月比3.9%上昇と4か月ぶりの上昇。

雇用情勢：高水準続く

2月の有効求人倍率（季調済）は1.70倍で、前月比0.02ポイント上昇、57か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.48倍で、前月比0.06ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業や、輸送用機械器具、食料品、金属製品などの製造業、運輸業、郵便業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、医療福祉、サービス業（他に分類されないもの）などが増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.15倍（前年差＋0.19ポイント）で前年を上回って推移し、8か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・(株)おやつカンパニー（津市）は、創業70周年を記念して2019年夏に工場一体型のテーマパーク「おやつタウン」を同社久居工場に隣接して開業することを発表。最新のITを活用したミュージアムや国内最大級の屋内型アスレチック、オリジナルのベビースターラーメン作りの体験コーナーなどを設置予定。ファミリー層をメインターゲットに、中部圏・関西圏等からの集客を期待。投資額は約25億円。初年度の来園者数は40万人を目指す。
- ・豊田合成(株)（愛知県）はFCV（燃料電池車）の主要部品である高圧水素タンクを生産するいなべ工場（いなべ市）を新設。今後、普及が見込まれるFCVの車種拡大に対応するため、高圧水素タンクの生産能力を強化。投資額は約120億円。稼働開始は2020年代初頭を予定。

三重県経済の動向

No.488

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きも持ち直し

3月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.0%減で20か月連続の減少。3月のコンビニ販売額（速報）は2.4%増で2か月連続の増加。家電大型専門店販売額（速報）は2.3%減で2か月連続の減少。ドラッグストア販売額（速報）は11.5%増で36か月連続の増加。4月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は6.1%増で3か月ぶりの増加。普通（△1.2%）は5か月ぶりに減少したものの、小型（＋1.8%）は4か月ぶりの増加、軽（＋15.7%）は2か月ぶりの増加。3月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、9.8%減で3か月連続の減少、3か月後方移動平均も3か月連続の減少。

住宅建築：足踏み

3月の住宅着工戸数は、前年比22.5%減で4か月連続の減少。3か月後方移動平均は17.4%の減少。持家（＋4.7%）が7か月ぶりに増加、分譲（＋4.6%）が4か月ぶりに増加したものの、貸家（△56.8%）が4か月連続の減少。床面積（△15.3%）は4か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

3月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比61.1%増で3か月ぶりの増加、3か月後方移動平均では2か月連続の減少。4月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比2.8%増と2か月連続の増加。3か月後方移動平均では4か月連続の増加。軽貨物（△12.9%）は5か月ぶりに減少したものの、普通貨物（＋34.9%）は2か月ぶりの増加、小型貨物（＋28.2%）は4か月ぶりの増加。

公共工事：横ばい

4月の公共工事請負件数は前年比46.1%増で7か月連続の増加。請負額は、25.7%増で3か月ぶりの増加。請負額増加の要因は、中日本高速道路(株)（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連、企業庁（県）において「播磨浄水場」、「山村浄水場」、「配水管シールド」関連の大型工事があった影響、また農林水産部（県）において取扱件数が増加した影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

3月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出額（速報）は、前年比16.7%減で2か月連続の減少。3か月後方移動平均では5か月連続の減少。主要港である四日市港は16.4%減で2か月連続の減少。品目別では鉱物性タール及び粗製薬品、石油製品などが増加したものの、有機化合物、自動車、科学光学機器などが減少。県内2港の通関輸入額は、7.4%減と9か月ぶりの減少。

生産活動：回復

2月の鉱工業生産指数（季調済）は138.2と前月比（＋0.6%）では2か月ぶりの上昇、原指数は135.7と前年比（＋7.0%）では11か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、電子部品・デバイス、窯業・土石製品、石油・石炭製品などで低下したが、輸送機械、情報通信機械、はん用機械などが上昇。在庫指数（季調済）は108.9で、前月比6.6%上昇と2か月連続の上昇。

雇用情勢：高水準続く

3月の有効求人倍率（季調済）は1.75倍で、前月比0.05ポイント上昇、58か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.49倍で、前月比0.01ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業や、輸送用機械器具、電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、小売業、社会保険・社会福祉・介護事業、サービス業（他に分類されないもの）などが増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.11倍（前年差＋0.19ポイント）で前年を上回って推移し、9か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ 三重大学は、3月25日に、海女振興事業の中核施設である「海の博物館」（鳥羽市）内に「海女研究センター」を開設。海女関連の古文書などの資料のデータベース化のほか、市民講座や海女に関する講義を開催する予定。海女漁と海女文化に関する教育研究活動を展開し、伊勢志摩の地域創生に寄与することを目指す。
- ・ 環境省「国立公園満喫プロジェクト」の一環として、昨年秋から再整備が進められていた伊勢志摩国立公園内の横山展望台（志摩市）の改修工事が一部完成し、3月31日から一般開放が始まった。8月には「天空カフェテラス」がオープンし、更なる観光客の増加が期待される。なお、同省によると、2017年の伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数（推計実利用者数）は前年比24.1%増となり、伊勢志摩サミット開催前年（2015年）と比べると2.3倍となった。

三重県経済の動向

No.489

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しており、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：一部で弱い動きも持ち直し

4月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比2.3%減で21か月連続の減少。4月のコンビニ販売額（速報）は2.4%増で3か月連続の増加。家電大型専門店販売額（速報）は3.3%減で3か月連続の減少。ドラッグストア販売額（速報）は8.4%増で37か月連続の増加。5月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は3.1%減で2か月ぶりの減少。軽（+0.0%）は前年比ほぼ横ばい、普通（△8.0%）は2か月連続の減少、小型（△1.6%）は2か月ぶりの減少。4月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、4.3%減で4か月連続の減少、3か月後方移動平均も4か月連続の減少。

住宅建築：足踏み

4月の住宅着工戸数は、前年比1.9%増で5か月ぶりの増加。3か月後方移動平均は11.0%の減少。持家（△1.4%）と分譲（△49.8%）が2か月ぶりに減少したものの、貸家（+49.8%）が5か月ぶりの増加。床面積（△5.0%）は5か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

4月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比293.1%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均では3か月連続の減少。5月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比1.2%増と3か月連続の増加。3か月後方移動平均では5か月連続の増加。普通貨物（△9.4%）と小型貨物（△2.2%）は2か月ぶりに減少したものの、軽貨物（+5.4%）は2か月ぶりの増加。

公共工事：横ばい

5月の公共工事請負件数は前年比20.1%増で8か月連続の増加。請負額は、93.8%増で2か月連続の増加。請負額増加の要因は、中部地方整備局（国）において「東海環状」、「国道23号」関連の大型工事があった影響、四日市市（市町）において「中央緑地新体育館」関連、南伊勢町（市町）において「南伊勢病院」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

4月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比3.1%減で3か月連続の減少。3か月後方移動平均では6か月連続の減少。主要港である四日市港は3.1%減で3か月連続の減少。品目別では石油製品、鉱物性タール及び粗製薬品などが増加したものの、有機化合物、科学光学機器、荷役機械などが減少。県内2港の通関輸入額は、12.8%増と2か月ぶりの増加。

生産活動：回復

3月の鉱工業生産指数（季調済）は138.0と前月比（△0.1%）では2か月ぶりの低下、原指数は153.5と前年比（+9.3%）では12か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、電子部品・デバイス、生産用機械、情報通信機械などで上昇したが、食料品、金属製品、化学工業などが低下。在庫指数（季調済）は121.9で、前月比11.9%上昇と3か月連続の上昇。

雇用情勢：高水準続く

4月の有効求人倍率（季調済）は1.73倍で、前月比0.02ポイント低下したものの、59か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.27倍で、前月比0.22ポイント低下。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業、宿泊業、飲食サービス業などは前年比減少したが、食料品、輸送用機械器具、電気機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.04倍（前年差+0.13ポイント）で前年を上回って推移し、10か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ 株村田製作所（京都府）は、「中勢北部サイエンスシティ」（津市）に進出している子会社の株伊勢村田製作所の新たな生産棟の建設を発表。スマートフォンの普及による需要拡大を背景に、主力商品である電子部品等の生産能力増大が目的。投資額（建物のみ）は約40億円。2018年6月着工、19年4月竣工予定。
- ・ 三重県の首都圏営業拠点「三重テラス」（東京都）の来館者数が、2013年のオープン以来、300万人を突破。伊勢志摩サミットが開催された16年度をピークに17年度はやや減少したが、ショップ、レストラン、イベントスペースにおいて三重の魅力や季節行事・イベントに対応した旬の情報を発信し、三重への誘客や販路拡大につながる取組を展開している。

三重県経済の動向

No.490

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直しの動きが一服したものの、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直しの動きが一服

5月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比3.0%減で22か月連続の減少。5月のコンビニ販売額（速報）は1.1%減で4か月ぶりの減少。家電大型専門店販売額（速報）は1.0%減で4か月連続の減少。ドラッグストア販売額（速報）は5.8%増で38か月連続の増加。6月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は9.9%減で2か月連続の減少。普通（△8.0%）は3か月連続の減少、小型（△21.1%）は2か月連続の減少、軽（△1.2%）は3か月ぶりの減少。5月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、6.7%減で5か月連続の減少、3か月後方移動平均も5か月連続の減少。

住宅建築：足踏み

5月の住宅着工戸数は、前年比8.0%減で2か月ぶりの減少。3か月後方移動平均は9.6%の減少。持家（△11.0%）と分譲（△16.4%）が2か月連続の減少、貸家（△0.5%）が2か月ぶりの減少。床面積（△9.6%）は6か月連続の減少。

設備投資：持ち直し

5月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比12.6%減で3か月ぶりの減少、3か月後方移動平均では4か月ぶりの増加。6月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比4.4%減と4か月ぶりの減少。3か月後方移動平均では6か月ぶりの減少。普通貨物（+25.0%）は2か月ぶりに増加したものの、小型貨物（△17.8%）は2か月連続の減少、軽貨物（△3.8%）は2か月ぶりの減少。

公共工事：横ばい

6月の公共工事請負件数は前年比6.7%減で9か月ぶりの減少。請負額は34.6%減で3か月ぶりの減少。請負額減少の要因は、中部地方整備局（国）において「東海環状」関連の大型工事等で増加したものの、昨年度、中日本高速道路(株)（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連、四日市市（市町）において「笹川中学校」関連、松阪市（市町）において「松阪図書館」、「粥見小学校」関連、志摩市（市町）において「阿児アリーナ」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

5月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比23.3%増で4か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では7か月連続の減少。主要港である四日市港は11.6%増で4か月ぶりの増加。品目別では科学光学機器、荷役機械などが減少したものの、石油製品、鉱物性タール及び粗製薬品、有機化合物などが増加。県内2港の通関輸入額は、47.9%増と2か月連続の増加。

生産活動：回復

4月の鉱工業生産指数（季調済）は138.2で前月比0.1%上昇と2か月ぶりの上昇、原指数は129.8で前年比7.8%上昇と13か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、生産用機械、情報通信機械、業務用機械などで低下したが、輸送機械、電子部品・デバイス、金属製品などが上昇。在庫指数（季調済）は117.9で、前月比3.3%低下と4か月ぶりの低下。

雇用情勢：高水準続く

5月の有効求人倍率（季調済）は1.69倍で、前月比0.04ポイント低下したものの、60か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.36倍で、前月比0.09ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、運輸業、郵便業などは前年比減少したが、建設業のほか、食料品、金属製品、輸送用機械などの製造業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉、サービス業（他に分類されないもの）などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.03倍（前年差+0.09ポイント）で前年を上回って推移し、11か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- 三重県「平成29年観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」によると、2018年（平成29年）の三重県への入込客数（実数）は42,195千人（前年比+0.7%）となり、2年連続で過去最多を更新した。県は、お伊勢さん菓子博が盛況だったことに加え、16年の伊勢志摩サミット開催によるPR効果で、伊勢志摩地域を中心に来訪者が増加したとみている。
- 三重県を代表する温泉地「湯の山温泉」（菟野町）が2018年に開湯1300年を迎える。年間（18年4月～19年3月）を通して様々な記念イベントが行われるほか、近畿日本鉄道(株)（大阪市）は名古屋～湯の山温泉間で観光列車「つどい」を土日、祝日を中心に運行する（18年7月14日～19年2月24日）。また、湯の山温泉から御在所岳山頂を結ぶ御在所ロープウェイは、新型ゴンドラ10両の導入、山頂の展望レストランやアウトドアショップ（モンベル）の新設などを行い、7月11日にリニューアルオープンした。

三重県経済の動向

No.491

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直しの動きが一服したものの、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直しの動きが一服

6月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.5%増で23か月ぶりの増加。6月のコンビニ販売額（速報）は2.2%増で2か月ぶりの増加。家電大型専門店販売額（速報）は11.5%増で5か月ぶりの増加。ドラッグストア販売額（速報）は9.2%増で39か月連続の増加。7月の乗用車販売台数（普通＋小型＋軽）は4.3%増で3か月ぶりの増加。小型（△3.3%）は3か月連続で減少したものの、普通（＋11.6%）は4か月ぶりの増加、軽（＋4.0%）は2か月ぶりの増加。6月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、23.1%増で6か月ぶりの増加、3か月後方移動平均も6か月ぶりの増加。

住宅建築：足踏み

6月の住宅着工戸数は、前年比16.5%増で2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均は4.2%増で9か月ぶりの増加。持家（△11.7%）は3か月連続で減少したものの、貸家（＋34.5%）が2か月ぶりの増加、分譲（＋124.3%）が3か月ぶりの増加。床面積（＋8.8%）は7か月ぶりの増加。

設備投資：持ち直し

6月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比37.7%増で2か月ぶりの増加、3か月後方移動平均では2か月連続の増加。7月の貨物自動車販売（普通＋小型＋軽）は、前年比1.3%増と2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では2か月連続の減少。普通貨物（△15.7%）は2か月ぶりに減少したものの、小型貨物（＋1.0%）は3か月ぶりの増加、軽貨物（＋6.1%）は2か月ぶりの増加。

公共工事：横ばい

7月の公共工事請負件数は前年比19.3%増で2か月ぶりの増加。請負額は28.5%増で2か月ぶりの増加。請負額増加の要因は、昨年度、県土整備部（県）において「三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場」関連の大型工事があった影響等により減少したものの、中日本高速道路(株)（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連、津市（市町）において「南郊中学校」、「津興橋大規模更新事業」、「津市久居消防署南分署」関連、松阪市（市町）において「鎌田中学校」、「庁舎本館空調設備」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

6月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）＋津港）の通関輸出額（速報）は、前年比9.8%増で2か月連続の増加。3か月後方移動平均では8か月ぶりの増加。主要港である四日市港は9.8%増で2か月連続の増加。品目別では科学光学機器、半導体等電子部品などが減少したものの、鉱物性タール及び粗製薬品、有機化合物、自動車の部分品などが増加。県内2港の通関輸入額は、42.5%増と3か月連続の増加。

生産活動：回復

5月の鉱工業生産指数（季調済）は144.9で前月比4.8%上昇と2か月連続の上昇、原指数は133.6で前年比6.7%上昇と14か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、生産用機械、金属製品、その他工業などで低下したが、電子部品・デバイス、食料品、プラスチック製品などが上昇。在庫指数（季調済）は120.7で、前月比2.4%上昇と2か月ぶりの上昇。

雇用情勢：高水準続く

6月の有効求人倍率（季調済）は1.75倍で、前月比0.06ポイント上昇。61か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.63倍で、前月比0.27ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、宿泊業、飲食サービス業、サービス業（他に分類されないもの）などは前年比減少したが、建設業のほか、電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、輸送用機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、医療、福祉などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.08倍（前年差＋0.09ポイント）で前年を上回って推移し、12か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

平成30年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）「2018 彩る感動 東海総体」が7月26日から始まった。全国、9つのブロックで持ちまわり開催しており、今年度は三重県が幹事県となり、東海ブロックで開催されている。三重県での開催は、1973年（昭和48年）以来45年ぶり。

大会期間中、三重県では8市町において15種目、愛知県では7市町で6種目の競技が開催され、8月20日に全種目が終了する。

三重県経済の動向

No.492

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直しの動きが一服したものの、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直しの動きが一服

7月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.7%増で2か月連続の増加。7月のコンビニ販売額（速報）は1.4%増で2か月連続の増加。家電大型専門店販売額（速報）は2.8%増で2か月連続の増加。ドラッグストア販売額（速報）は8.9%増で40か月連続の増加。8月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は1.2%増で2か月連続の増加。小型（△5.3%）は4か月連続で減少したものの、普通（+5.1%）は2か月連続の増加、軽（+3.2%）は2か月連続の増加。7月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、19.5%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均も2か月連続の増加。

住宅建築：足踏み

7月の住宅着工戸数は、前年比7.7%増で2か月連続の増加。3か月後方移動平均は6.1%増で2か月連続の増加。持家（+12.0%）は4か月ぶりの増加、貸家（+8.0%）と分譲（+35.4%）は2か月連続の増加。床面積（+7.7%）は2か月連続の増加。

設備投資：持ち直し

7月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比10.5%減で2か月ぶりの減少、3か月後方移動平均（△0.6%）では3か月ぶりの減少。8月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比1.2%減と2か月ぶりの減少。3か月後方移動平均では3か月連続の減少。軽貨物（+9.7%）は2か月連続で増加したものの、普通貨物（△17.3%）は2か月連続の減少、小型貨物（△12.5%）は2か月ぶりの減少。当社の調査（トピックス参照）によると、設備投資（500万円以上）を実施した企業の割合は48.9%と2010年以降で最も高い割合となった。

公共工事：横ばい

8月の公共工事請負件数は前年比10.6%増で2か月連続の増加。請負額は8.2%増で2か月連続の増加。請負額増加の要因は、県土整備部（県）の取扱件数が増加したこと、企業庁（県）において「垂坂配水池敷地造成」、「内径1200 耗配水管布設」関連、四日市市（市町）において「吉崎ポンプ場」、松阪市（市町）において「松阪市北部学校給食センター整備事業」、明和町（市町）において「明和中学校校舎建設」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：輸出は一進一退／輸入は上向き傾向

7月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比22.8%増で3か月連続の増加。3か月後方移動平均では2か月連続の増加。主要港である四日市港は22.8%増で3か月連続の増加。品目別では科学光学機器、半導体等電子部品などが減少したものの、石油製品、鉱物性タール及び粗製薬品、有機化合物などが増加。県内2港の通関輸入額は、41.0%増と4か月連続の増加。

生産活動：回復

6月の鉱工業生産指数（季調済）は147.5で前月比1.8%上昇と3か月連続の上昇、原指数は147.3で前年比11.1%上昇と15か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、輸送機械、プラスチック製品、その他工業などで低下したが、電子部品・デバイス、食料品、生産用機械などが上昇。在庫指数（季調済）は120.3で、前月比0.3%低下と2か月ぶりの低下。

雇用情勢：高水準続く

7月の有効求人倍率（季調済）は1.69倍で、前月比0.06ポイント低下。62か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.57倍で、前月比0.06ポイント低下。新規求人数（原数値）を産業別にみると、食料品、電気機械器具、輸送用機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、医療、福祉などは前年比増加したが、建設業のほか、小売業、宿泊業、飲食サービス業、サービス業（他に分類されないもの）などは減少。正社員有効求人倍率（原数値）は1.12倍（前年差+0.09ポイント）で前年を上回って推移し、13か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

当社が今年7月に県内事業所向けに実施した「景況調査」結果（回収490件、回収率41.0%）によると、業況判断BSIは、2018年度上期実績見込みは+2.9で、17年度下期（+10.8）よりプラス幅は縮小するも2期連続のプラスとなり、18年度下期も+0.2とわずかながらプラスを維持する見通し。実績見込みで2期連続プラスとなったのはバブル崩壊後で初めて。業況感、やや鈍化しつつも回復基調が続くとみられる。

調査対象22業種のうちプラスは、前々期6業種から、前期13業種、今期11業種、来期10業種となり、前期よりは減少したものの幅広い業種でプラスを維持している。とくに製造業は大・中堅企業、中小企業ともに今期2桁プラスとなり、来期もプラスを維持する見通し。

三重県経済の動向

No.493

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直し、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直し

8月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.7%増で3か月連続の増加。8月のコンビニ販売額（速報）は2.5%増で3か月連続の増加。家電大型専門店販売額（速報）は1.2%減で3か月ぶりの減少。ドラッグストア販売額（速報）は6.6%増で41か月連続の増加。9月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は0.5%増で3か月連続の増加、3か月後方移動平均では7か月ぶりの増加。小型（△1.5%）は5か月連続の減少、軽（△6.0%）は3か月ぶりに減少したものの、普通（+10.2%）は3か月連続の増加。8月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、1.5%減で3か月ぶりの減少、3か月後方移動平均は3か月連続の増加。

住宅建築：上向きつつある

8月の住宅着工戸数は、前年比43.4%増で3か月連続の増加。3か月後方移動平均は21.9%増で3か月連続の増加。持家（+0.9%）は2か月連続の増加、貸家（+103.6%）と分譲（+75.0%）は3か月連続の増加。床面積（+21.7%）は3か月連続の増加。

設備投資：持ち直し

8月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比74.9%減で2か月連続の減少、3か月後方移動平均（△42.3%）では2か月連続の減少。9月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比5.6%増と2か月ぶりの増加。3か月後方移動平均では4か月ぶりの増加。小型貨物（△16.8%）は2か月連続で減少したものの、普通貨物（+14.1%）は3か月ぶりの増加、軽貨物（+15.2%）は3か月連続の増加。

公共工事：横ばい

9月の公共工事請負件数は前年比4.0%減で3か月ぶりの減少。請負額は7.6%増で3か月連続の増加。請負額増加の要因は、中日本高速道路株（独立行政法人等）において「新名神高速道路」関連、県土整備部（県）において「海岸高潮対策工事」、「北部浄化センター」関連の大型工事があった影響等による。年度累計（4月～9月）では、請負件数は前年同期比8.4%増、請負額は同14.3%増。

輸出入：上向き

8月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比9.2%増で4か月連続の増加。3か月後方移動平均では3か月連続の増加。主要港である四日市港は9.3%増で4か月連続の増加。品目別では半導体等電子部品、科学光学機器などが減少したものの、石油製品、鉱物性タール及び粗製薬品、有機化合物などが増加。県内2港の通関輸入額は、51.0%増と5か月連続の増加。

生産活動：回復

7月の鉱工業生産指数（季調済）は154.9で前月比5.0%上昇と4か月連続の上昇、原指数は152.9で前年比15.1%上昇と16か月連続の上昇。業種別に前月比をみると、生産用機械、パルプ・紙・紙加工品、その他工業などで低下したが、電子部品・デバイス、輸送機械、食料品などが上昇。在庫指数（季調済）は115.9で、前月比3.7%低下と2か月連続の低下。

雇用情勢：高水準続く

8月の有効求人倍率（季調済）は1.72倍で、前月比0.03ポイント上昇。63か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.38倍で、前月比0.01ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、サービス業（他に分類されないもの）などは前年比減少したものの、建設業のほか、食料品、プラスチック製品、金属製品などの製造業、運輸業、郵便業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.14倍（前年差+0.10ポイント）で前年を上回って推移し、14か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ 寿がきや食品(株)（愛知県）は、2018年9月に「亀山・関テクノヒルズ」（亀山市）への新工場建設を発表。災害時のリスク分散、BCPを含めた生産・供給体制の確立と供給能力の拡大に対応した第2の生産拠点を目指す。同地の選択理由として、物流の利便性に加え、津波・液状化等の災害に対する安全性の高さなどを挙げている。21年2月稼働予定。
- ・ 東芝メモリ(株)（東京都）は、2018年9月19日に四日市工場（四日市市）で3次元フラッシュメモリを製造する第6製造棟（17年2月着工）およびメモリ開発センターの竣工式を行った。3次元フラッシュメモリは、エンタープライズ用サーバやデータセンター向けSSDおよびスマートフォン向けを中心に需要の拡大が見込まれ、今後も市場動向に応じた追加投資を行っていく予定。

三重県経済の動向

No.494

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直し、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直し

9月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比2.5%増で4か月連続の増加。9月のコンビニ販売額（速報）は5.9%増で4か月連続の増加。家電大型専門店販売額（速報）は9.0%増で2か月ぶりの増加。ドラッグストア販売額（速報）は4.0%増で42か月連続の増加。10月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は12.1%増で4か月連続の増加、3か月後方移動平均では2か月連続の増加。普通（+17.3%）は4か月連続の増加、小型（+18.3%）は6か月ぶりの増加、軽（+4.0%）は2か月ぶりの増加。9月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、14.4%増で2か月ぶりの増加、3か月後方移動平均は4か月連続の増加。

住宅建築：上向きつつある

9月の住宅着工戸数は、前年比14.5%増で4か月連続の増加。3か月後方移動平均は21.3%増で4か月連続の増加。持家（△3.8%）は3か月ぶりに減少したものの、貸家（+42.3%）と分譲（+26.0%）は4か月連続の増加。床面積（+8.9%）は4か月連続の増加。

設備投資：持ち直し

9月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比87.0%増で3か月ぶりの増加、3か月後方移動平均（△25.9%）では3か月連続の減少。10月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比25.5%増と2か月連続の増加。3か月後方移動平均では2か月連続の増加。普通貨物（+28.7%）は2か月連続の増加、小型貨物（+1.2%）は3か月ぶりの増加、軽貨物（+34.8%）は4か月連続の増加。

公共工事：横ばい

10月の公共工事請負件数は前年比21.1%増で2か月ぶりの増加。請負額は66.9%増で4か月連続の増加。請負額増加の要因は、県土整備部（県）及び津市（市町）、伊勢市（市町）において取扱件数が増加した影響等、また、鈴鹿市（市町）において「AGF 鈴鹿体育館」、「鈴鹿市立西条保育所」関連、四日市市（市町）において「浜田通り貯留管築造工事」関連、松阪市（市町）において「松阪市立春日保育園」関連の大型工事があった影響等による。

輸出入：上向き

9月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比13.8%増で5か月連続の増加。3か月後方移動平均では4か月連続の増加。主要港である四日市港は2.8%増で5か月連続の増加。品目別では半導体等電子部品、科学光学機器などが減少したものの、石油製品、鉱物性タール及び粗製薬品、自動車の部品などが増加。県内2港の通関輸入額は、14.4%増と6か月連続の増加。

生産活動：回復基調続く

8月の鉱工業生産指数（季調済）は139.2で前月比10.1%低下と5か月ぶりの低下、原指数は130.1で前年比0.6%低下と17か月ぶりに低下したものの水準は低くない。業種別に前月比をみると、パルプ・紙・紙加工品、食料品、金属製品などで上昇したが、電子部品・デバイス、輸送機械、情報通信機械などが低下。在庫指数（季調済）は110.8で、前月比4.4%低下と3か月連続の低下。

雇用情勢：高水準続く

9月の有効求人倍率（季調済）は1.70倍で、前月比0.02ポイント低下。64か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.55倍で、前月比0.17ポイント上昇。新規求人数（原数値）を産業別にみると、宿泊業、飲食サービス業、サービス業（他に分類されないもの）などは前年比減少したものの、建設業のほか、電子部品・デバイス・電子回路、電気機械器具、輸送用機械器具などの製造業、運輸業、郵便業、小売業、医療、福祉などは増加。正社員有効求人倍率（原数値）は1.18倍（前年差+0.14ポイント）で前年を上回って推移し、15か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ アトランティックサーモンの養殖を手掛けるソウルオブジャパン（東京都）は10月18日に、ニューファクトリーひさい工業団地（津市）に進出する立地協定を県や市と締結。国内初、アジア最大級の閉鎖循環式陸上養殖（RAS）によるアトランティックサーモンの養殖・加工工場を建設する。投資額は約170億円（新聞報道による）。
- ・ スペインの自動車向けプレス部品最大手ゲスタンプ・オートモシオンは、嬉野工業団地（松阪市）に同社にとって日本初となる工場を建設。10月25日に、開設記念式典を行った。投資額は約50億円強（新聞報道による）。

三重県経済の動向

No.495

HRI(株)百五総合研究所 地域調査部（谷ノ上・前田）

【現在の景気】：緩やかに回復している。個人消費は持ち直し、生産は回復、雇用は高水準で推移。

【当面の見通し】：緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

個人消費：持ち直し

10月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.9%増で5か月連続の増加。10月のコンビニ販売額（速報）は0.2%減で5か月ぶりの減少。家電大型専門店販売額（速報）は0.3%減で2か月ぶりの減少。ドラッグストア販売額（速報）は7.1%増で43か月連続の増加。11月の乗用車販売台数（普通+小型+軽）は5.7%増で5か月連続の増加、3か月後方移動平均では3か月連続の増加。軽（△4.3%）が2か月ぶりに減少したものの、普通（+21.7%）が5か月連続の増加、小型（+1.9%）が2か月連続の増加。10月の家計消費支出（津市・二人以上の世帯）は、1.0%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均は5か月連続の増加。

住宅建築：上向きつつある

10月の住宅着工戸数は、前年比9.0%減で5か月ぶりの減少。3か月後方移動平均は15.0%増で5か月連続の増加。持家（+9.8%）は2か月ぶりに増加したものの、貸家（△29.4%）と分譲（△21.0%）は5か月ぶりの減少。床面積（△3.4%）は5か月ぶりの減少。

設備投資：持ち直し

10月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年比82.9%増で2か月連続の増加、3か月後方移動平均（△9.0%）では4か月連続の減少。11月の貨物自動車販売（普通+小型+軽）は、前年比13.7%増と3か月連続の増加、3か月後方移動平均でも3か月連続の増加。普通貨物（+3.6%）は3か月連続の増加、小型貨物（+6.4%）は2か月連続の増加、軽貨物（+18.5%）は5か月連続の増加。

公共工事：横ばい

11月の公共工事請負件数は前年比1.1%増で2か月連続の増加。請負額は12.1%減で5か月ぶりの減少。請負額減少の要因は、昨年度、県土整備部（県）において「志登茂川河川改修」、「宮川流域下水道明和幹線」の大型工事があった影響等、また津市（市町）において取扱件数の減少及び昨年度「南郊中学校」の大型工事、四日市市（市町）において「中央緑地新体育館」の大型工事があった影響等による。

輸出入：上向き

10月の県内2港（四日市港（尾鷲通関分含む）+津港）の通関輸出額（速報）は、前年比9.0%増で6か月連続の増加。3か月後方移動平均では5か月連続の増加。主要港である四日市港は9.0%増で6か月連続の増加。品目別では石油製品、半導体等電子部品などが減少したものの、自動車の部分品、有機化合物、電気回路等の機器などが増加。県内2港の通関輸入額は、24.4%増と7か月連続の増加。

生産活動：回復基調続く

9月の鉱工業生産指数（季調済）は130.2で前月比6.5%低下と2か月連続で低下したものの水準は低くない。原指数は143.2で前年比0.4%上昇と2か月ぶりの上昇。業種別に前月比をみると、生産用機械、輸送機械、家具などで上昇したが、電子部品・デバイス、金属製品、食料品などが低下。在庫指数（季調済）は117.4で、前月比6.0%上昇と4か月ぶりの上昇。

雇用情勢：高水準続く

10月の有効求人倍率（季調済）は1.69倍で、前月比0.01ポイント低下。65か月連続で1倍を超え、全国を大きく上回って推移。新規求人倍率（季調済）は2.41倍で、前月比0.14ポイント低下。新規求人数（原数値）を産業別にみると、建設業のほか、食料品、輸送用機械器具、生産用機械器具などの製造業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉などは前年比増加したものの、運輸業、郵便業、小売業、サービス業（他に分類されないもの）などは減少。正社員有効求人倍率（原数値）は1.20倍（前年差+0.11ポイント）で前年を上回って推移し、16か月連続で1倍を超えた。

（トピックス）

- ・ イオンモール(株)（千葉県）は、11月9日に「イオンモール津南」（津市）をグランドオープンした。延べ床面積約10万2千㎡、売り場面積約6万㎡の地上3階建。県内では「イオンモール鈴鹿」（鈴鹿市）に次いで2番目の規模で年間800万人の来店を目指している。
- ・ 11月22日に住友林業(株)（東京都）とHISホテルホールディングス(株)（東京都）は、2020年に多気町で開業予定の「アクアイグニス多気」の中核となる宿泊施設の保有会社「アクアイグニス多気ホテルアセット(株)」の設立を発表した。「アクアイグニス多気」は、(株)アクアイグニス（東京都）をはじめとする民間企業が三重県や多気町などの行政、三重大学や地元高校などの教育機関と連携して地方創生を目指す「癒し」と「食」をテーマにした滞在型複合施設。